

第4学年 音楽科 授業構想シート

授業者 北川 真里菜

本実践の 主張点	他教科と関連させた単元を貫くめあてや表現と鑑賞を往還する題材構成により,汎用的な思考力・判断力・表現力を育むことができるであろう。
-------------	---

1. 単元名 音のお・も・て・な・し ～五音音階をつかって,海外の人に和のよさを伝えよう～

2. 4年B組の子ども

4Bの子供たちは好奇心旺盛で,特に音楽づくりなど自分たちの表現を生み出すことに興味をもっている。これまでも音楽づくりでは,簡単な旋律づくりやリズムアンサンブル,変奏曲づくりなどに取り組んできた。和楽器に触れるのは本題材が初めてとなる。

3. 何ができるようになるか

探究力	・曲想と音楽の構造などとの関わりに気付き,知識や技能を得たり活用したりしながら,思いや意図をもって音楽表現を工夫したり,楽曲を味わって聴いたりする力
省察性	・音楽的な見方・考え方を働かせて自己や他者の表現や聴き方を省みることで,調整・改善したりその価値に気付いたりしながら,音楽表現や音楽鑑賞の質を高める力

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

日本の音楽の特徴を聴き取り,その働きによって生まれるよさや美しさを感じ取りながら,聴いたり演奏したり,音階の音で旋律をつくったりすることができる。

② 教材の価値

日本では,古来より西洋とは違った独特な音階を使ってきた。四七抜きと呼ばれる五音音階で,民謡音階,律音階,都節音階,琉球音階など多くの種類がある。本単元においては,『さくらさくら』『うさぎ』等でもつかわれている「都節音階」を取り上げる。都節音階は箏の調弦で一般的に用いられており,箏は繊細な美しい音色を特徴とし,比較的演奏が容易な楽器である。

漠然と聴いていた日本音楽に価値を見出して捉えなおしたり,音楽をつくる過程で調整や改善を繰り返しながら自分の表現を省みたり,といった省察性がはたらくことで,日本音楽のよさや面白さをより深く味わえるであろう。

③ 学年間・教科間のつながり

総合的な学習の時間や外国語活動での活動を音楽科の学習と関連させ,「海外の人に和のよさを伝えよう」という単元を貫く課題として掲げながら学習を進めていく。

また,本題材の前題材で学んだ西洋の弦楽器(ヴァイオリンなど)や手作り弦楽器と比べながら箏に触れたり,次題材では日本や東洋の音楽に魅了され五音音階を自身の作曲に積極的に取り入れたフランスの作曲家ドビュッシーなどを中心に,近代西洋音楽への学習へとつなげていったりするなど,学んだことが活用・発揮できるよう音楽科における題材配列の工夫も行う。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる
 つなげる
 まとめる
 広げる
 予想する
 見方を変える

③ 学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全5時間） 本時4/5 前単元「弦楽器のしくみ調査隊」				総合・外国語活動 「This is my favorite place.」	単元における 授業づくりの しかけ				
1	1	海外の人に「和」のよさを伝えよう	『さくらさくら』『うさぎ』はなぜ「和」っぽく感じるのか？ そのひみつにせまろう		日本独特の音階をつかった我が国の音楽の特徴に気付く。	探究力を育む	・題材を貫くめあてを掲げ、本時の後には実際に外国の人につくった音楽を発表する場を設ける。(主体) ・鑑賞→表現(器楽・音楽づくり)→鑑賞の題材構成により,学びを深めていく。(活用)		
2	2	海外の人に「和」のよさを伝えよう	『さくらさくら』を和楽器 お箏 で演奏してみよう		箏の音色を聴き取り, その特徴を感じ取りながら演奏する。			省察性を育む	・タブレットの録音機能を利用し,自分たちの演奏やつくった音楽を客観的に捉えなおせるようにする。
	3		お箏の伝統的な奏法をいろいろ試してみよう		合わせ爪,スクイ爪などの奏法の効果に気付く。				
4	本時		五音音階をつかって和のよさを伝える音楽をつくろう		イメージに合った旋律や合いの手をつくる。				
3	5		ほかに…五音音階でつくられている音楽を聴いてみよう		我が国の音楽のよさを味わって聴く。				
次単元「印象派の音楽」									

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・曲想と音楽の構造について理解している。 ・思いや意図に合った表現をするために必要な,音色や響きに気を付けて演奏する技能を身に付けて箏を演奏している。	・音階を聴き取り,それらの働きが生み出すよさや面白さ,美しさを感じ取りながら,聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え,即興的に表現することを通して,音楽づくりの様々な発想を得ている。	・音階の学習に興味関心をもち,音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

音楽科学習指導本時案

授業者 北川 真里菜

日時：2019年11月3日（日）第2校時（10：05～10：45）

対象：第4学年B組 29人

場所：第1音楽室

本時の主張点	前時までの学びを生かして協働的に音楽をつくることで、我が国の伝統音楽の特性に気づき、そのよさや面白さについてより深く味わうことができるであろう。
--------	--

1. 本時の構想と学習課題について

「海外の人に和のよさを伝えよう」という単元を貫くめあてにむかって、本時ではお箏を用い、都節音階をつかった音楽を即興的につくる活動を行う。

音楽をつくる過程で調整や改善を繰り返しながら自分の表現を省みたり、漠然と聴いていた日本音楽に価値を見出して捉えなおしたりといった省察性がはたらくことで、つくる過程で日本音楽のよさや特徴、その魅力について深く味わえるようにしたい。

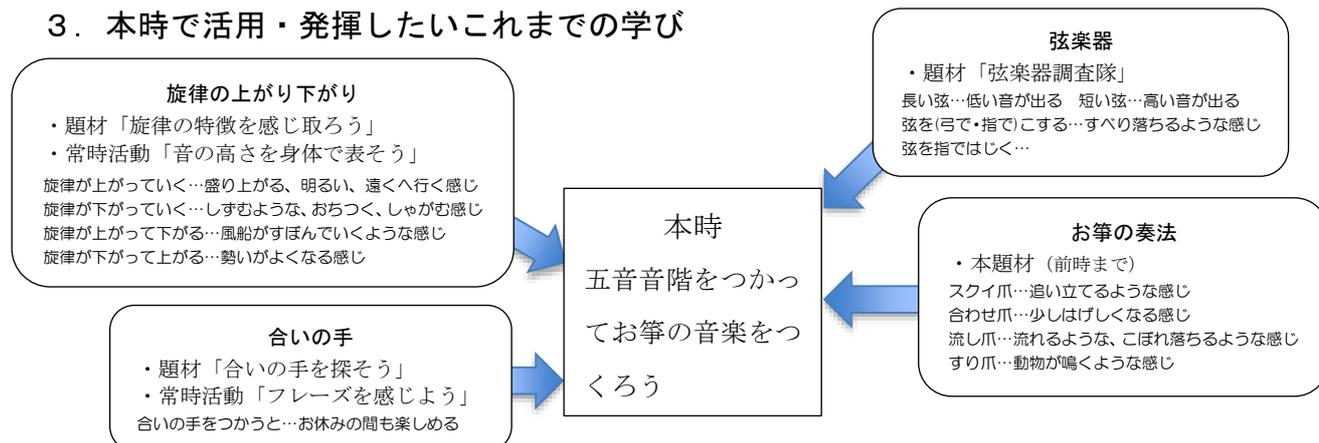
本時においては、一面の箏を両面から2人で演奏し「主旋律」「合いの手」の担当に分かれ協働的に音楽をつくる。タブレットのバーチャル箏アプリ「iKotoHD」と実際の箏(3面)の双方を使って進め、つくれた音楽を、箏の伝統的な楽譜「絃名譜」または、図形楽譜に表す。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

本校では、探究的な学びの指標として、主体・協働・活用・省察の4つを掲げている。本時において探究する子どもの姿を以下のように考えている。

	主体	協働	活用	省察
子どもの姿 ↑	音に出して確かめ、試行錯誤しながら、イメージに合った音楽を意図的につくっている。	2人組で話し合いながら、イメージに合った音楽をつくっている。	旋律の上がり下がりや合いの手、様々な箏の奏法による効果に関する学習を生かし、イメージに合うように取り入れて音楽をつくっている。	イメージに合うように考えた旋律を音に出して確かめたり、音に出したものを聴いて更にイメージを深めたりしながら、音楽をつくっている。
教師のしかけ	海外の人に伝えたい「和を感じるもの」をテーマとする。 (例：風鈴、花火)	1面のお箏を両側から2人で演奏し、旋律と合いの手の担当に分かれて、ひとつの音楽をつくる。	本時で活用できる知識技能について学ぶ時間をカリキュラムとして位置付けておく。	タブレットの録音機能を使い、作った音楽を客観的に聴けるようにする。

3. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び



4. 本時の目標

都節音階の特徴を聴き取り、その働きによって生まれるよさや面白さを感じ取って、思いや意図をもってイメージに合った旋律や合いの手をつくることができる。

5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 教師と一緒に、1面のお箏で即興的に音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ やってみたい。 ○ 自分にもできそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、教師が即興的に箏で音を出して音楽をつくってみる。やってみたいという子供を前に出し、慣れてきたら子供の即興的な表現に教師が合いの手をつけてみる。 ・ 即興的な表現に対して「どんな感じがした？」などと問うことで、曲想と結びつける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">五音音階をつかってお箏の音楽をつくろう</div>	
<p>2. 2人組に分かれ、前時までに考えた 海外の人に伝えたい「和を感じるもの」をテーマとした音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 流し爪の奏法で、旋律がだんだん上がっていくようにして、花火が空にあがる様子を表そう。 ○ 池に水が落ちる様子を表したいから、合いの手は高い音ではねるように弾いて「ポツン」という感じを出そう。 ○ なんとなく音を出していたら、この旋律はさくらが散っているみたいだ。そういう音楽をつくってみよう。 <p>3. イメージに合うようにつくっている2人組を何組か紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ こんなふうにつくればいいんだな。 ○ まねしてみたい。 <p>2. 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ つくっている途中でテーマを変えることも許容する。 ・ それぞれの表現を聴き、その思いや意図を言葉で尋ねるなどして子供の思考を促していく。 <p>思 都節音階の特徴を聴き取り、その働きによって生まれるよさや面白さを感じ取って、どのようにしてイメージに合った旋律や合いの手をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いや意図をもって音楽をつくっているペアを紹介し、どういったところがよかったのか教師が具体的に価値付ける。